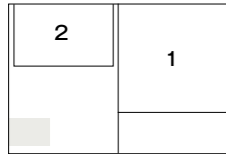




1. 豎穴型の溶岩樹型。大山さんは「魔神穴」と呼ぶ。穴の底から丸く切り取られた樹海を見上げた格好である。「樹海をさまよう内に不思議な樹型に出会った。何物だ?何しに来た?とすごい形相で迎えてくれた」と大山さん。2. 溶岩原の樹木群。緑のこけが絨毯のようにどこまでも広がっている。土がほとんどない所に必死で根を張る木々に心打たれる



奇景に彩られた深淵の森

目の前の風景に、一瞬息をのむ。こんな森は見たことがない。ゴツゴツした溶岩が広がる凸凹だらけの奇怪な林床。木々は、溶岩を覆うわずかな表土にしがみつこうように根を張り、その周囲にはおびただしい数の倒木が折れ重なっている。そして、それらのことごとくがこけむして緑に染まり、木漏れ日を艶やかに照らし返す。

「青木ヶ原樹海を歩いていると、時々海の底にこのような錯覚にとらわれることがあります」と写真家の大山行男さんが言う。

なるほど、言われてみると足元で身をくねらせる倒木らは、海の底を這う未知の深海生物に見えなくもない。そうかと思えば、絡み合っただけの2本の木と行き合ったりもする。その姿は、抱き合う恋人のよう。何ともなまめかしい。「アートですね」との声に、大山さんがゆっくりとうなづく。

「そう、これは全部、富士山が創ったもの。樹海はさしずめ、富士山造形美術館といったところかな」

大山さんは37年間にわたり、富士山

写真家・大山行男が撮る、

富士樹海の造形美

平安時代初期、貞観噴火により生まれた富士山北西麓の青木ヶ原樹海。かつては「一度入ると出られない」と恐れられた深い森だが、今は樹海のガイドツアーが人気だ。理由は、火の山が創り出した富士山特有の多様な自然景観を携えているからだ。富士山の写真の第一人者として知られる大山行男さんと共に樹海に行く。

取材協力/白石哲三(富士河口湖町公認ネイチャーガイド 富士エコツアー・サービス) 文/高橋盛男 取材写真/染谷 學



「石塚火口」で撮影中の大山行男さん。大山さんは1952年神奈川県生まれ。代表作に『富士 樹海』(毎日新聞社)など



方キロメートル。東西約8キロ、南北約6キロにも及ぶ。

「この樹海は、貞観噴火の後、およそ1150年をかけて形成された自然林です」と説明するのは白石哲三さん。富士河口湖町の公認ネイチャーガイドの一人で、樹海の案内役をお願いした。

貞観噴火とは、平安時代の初め、貞観6(864)年から貞観8(866)年ころにかけて起こった富士山の大规模な火山活動だ。

「富士山中腹、大室山の周辺から流れ出た膨大な量の溶岩流により、広大な溶岩の原野が出現しました」

それが青木ヶ原の起伏に富む地形の基だ。溶岩流はこのとき、富士山の北麓にあった剝(せ)の海という広大な湖を埋め立て、現在の西湖と精進湖に



1.国指定天然記念物に指定されている溶岩洞窟「本栖第二風穴」。大山さんは「夏至の日、解けて小さくなった氷筍を見に風穴に降りたが、上から差し込む光にそこは異次元空間と化していた」と語る。氷筍は、2月ごろ生長し、初秋ごろまで見られる。2.「本栖第二風穴」の氷筍。「毎年毎年怪しさと恐怖を感じていたが、改めてギャオーと叫んだ」と大山さん。3.「富士風穴」の氷筍。「洞内は宝の山だ」

| | | |
|---|---|---|
| 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|

分けた。さらに、溶岩流は冷える過程でさまざまなタイプの溶岩洞窟や溶岩樹型を創り出した。大地に口を開けたそれら大小の穴も青木ヶ原特有の自然景観だ。

その一つ、「富士風穴」に入ってみる。全長230メートルほどの溶岩洞窟である。洞床は厚い氷にほぼ覆われており、氷室にいるように肌寒い。途中の大広間のような開けた空間で、かわいらしいものたちに出会った。

氷筍(ひょうじゅん)である。厳寒期に天井から滴り落ちた水滴が、冷えた洞床に触れて凍り、それが積み重なって紡錘形(ぼうすい)に伸びたものだ。生成の理屈はそうなのだが、たくさんの氷筍が洞床に散開する様子は、幻想的だ。森の精霊たちの寄り合いのようであり、彼らのささやく声も聞こえてきそうだ。

大山さんは、彼らを「五百羅漢ちかひのようだ」と言う。確かに、氷筈一つ一つに表情があり、羅漢像のようでもある。見る人により、感じ方が異なるのがまた面白い。

根上がりの木が語る生きる力

歩いてみると樹海は、思いの外に多彩な表情を持っている。

貞観噴火では、溶岩流は大室山を巻いて流れた。溶岩流の大半は、大室山の東側を回り、北麓一帯へ広範に流れたが、一部の溶岩流は大室山の南側を流れて西に走った。

この二つの溶岩流跡では、景観がかなり異なる。広範に流れた東側の溶岩原は、比較的なだらかな地形。散在する丸い溶岩塊がこけむして、マリモのように見える林床の景観などからは、コミカルな印象さえ受ける。

一方、細流となつて流れた大室山の西麓は、沢を駆け下った溶岩の激流が、そのまま冷え固まった形だ。水蒸気爆発の跡や風穴、溶岩に取り巻かれて焼けた樹木の跡である溶岩樹型も多く、景観が荒々しい。

そんな多様な風景の中でも、とりわけ心を揺さぶられるのは、薄く養分の少ない表土に芽生え、必死に生き抜こ

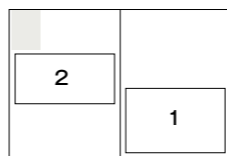
うとする溶岩原の樹木群だ。

「こういう根上がりの木が、樹海ではよく見られます」と、白石さんが教えてくれた木は、根が空中にむき出しのまま立っていた。

「倒木の上で種が芽を出して成長し、その後倒木が朽ち果ててなくなり、こういう相撲取りが四股立ちしたような姿になるんです」

最初は、その形の妙を笑って見ていた。だが、そのうち笑えなくなつた。根を十分に張れない溶岩質の大地。ある程度は成長しても、自重を支え切れずに倒れてしまう木が多い。そんな過酷な環境下で、それでも彼らは一途いちずに生きようとする。

「人間もこうありたいものです。何があっても挫けずに生きると、この木は語り掛けているのですよ」と傍らで大山さんが言った。



1.まるで相撲取りが四股立ちしたような溶岩原の樹木。「精霊と妖怪を求め樹海の中をさまよい、出会った」と大山さん。これらの溶岩原とは対照的に、溶岩をかぶらなかつた大室山には、推定樹齢400年というブナやミズナラの巨木が見られる。
2.西湖畔で見られる富士の縄状溶岩。「溶岩流が流れてきた姿が時を超えそのまま残っている」



青木ヶ原は「樹海遊園地だ」と語る大山さん(左端)。右端はガイドの白石さん、中央は筆者



広大な樹海は迷子になりやすく危険も伴うため、ガイドツアーに参加するか、「富岳風穴」「鳴沢水穴」「船津胎内樹型」「コウモリ穴」など許可申請が不要で遊歩道も整備された観光洞へのお出掛けを推奨します
●富士エコツアー 富士エコツアー・サービス ☎0555-89-2020 www.fuji-eco.com/index.html
●青木ヶ原樹海 ネイチャーガイドツアー 富士河口湖町観光課 ☎0555-72-3168

自然との対話こそが芸術の源泉

貞観噴火のときの四つの溶岩噴出孔の一つ、「石塚火口」の中から外を眺めている。「今日はお天気ですが、雨や霧の日がまたいい。しっとりとして一段と幻想的です」と大山さん。

青木ヶ原へ出掛けるとき、大山さんは「樹海遊園地へ行く」と言うことがあるそうだ。洞穴アドベンチャーに凸凹溶岩原のアスレチック。遊園地とは面白い表現だ。樹海遊園地は、ぜひガイドと入園してほしい。詳しい人と歩けば、樹海の自然は富士山作の造形の妙と、その奥深さをたっぷり味わわせてくれる。そして、言葉にはならない多くのことを語り掛けてくる。

「その対話が楽しくて、ここに来るのです」と大山さん。「写真は、偉大な富士山を敬い感謝する気持ちの、私なり

の表明」だとも語る。それは、富士山信仰とも通じる心情であるだろう。世界文化遺産の登録で、富士山は『信仰の対象』『芸術の源泉』としての価値を認められたが、その出発点となっているのは、この稀有けうな自然と、それに対する人々の畏敬である。「自然と調和した生き方を求めた先人たちの精神的価値。そこにもっと普遍的な文化的価値。そこにもっと目を向けてほしい」と大山さんは言う。富士山を題材に取り上げたアーティストは多い。彼らもまた富士山との対話を通して、さまざまなインスピレーションを得た人々だ。富士山の自然が携える造形の妙には、アーティストの創造性を喚起してやまないエネルギーがある。これも、世界文化遺産としての富士山の、まぎれもない文化的価値である。